

フィリピンにおける自然災害の理解とその対応：室内・野外実習を通じた体験型プログラム
(留学期間 2018年3月6日～2018年3月15日)

自然システム学類 3年 水野文人

私は今回、理工学域自然システム学類地球学コースが開催したフィリピンにおける火山活動とその背景を学ぶ10日間のプログラムに参加した。当初は初めての海外ということで自分の英語が通用するかどうか、文化の違いに順応できるかなどの不安があった。マニラ到着日の翌日はフィリピン大学で講義を受け、現地の学生とグループワークなどを行った。慣れない英語での会話だったが、皆必死に自分の意見を伝えようとジェスチャーを交えながらコミュニケーションをとっていた。フィリピンの人たちはとても気さくで話しかけやすいのが印象的だった。3日目以降はフィールドにおいて地層や岩脈群などの露頭観察や地形の形成に関する説明を受けた。約4000万年前の海洋地殻や旧鉱山での観察は貴重な経験だった。また鉱山会社が掘った数百mのボーリングコアを見せていただき、フィールドでは観察できないような地下に分布する岩石の連続的な変化をじっくりと見る事ができた。5日目は20世紀最大ともいわれた大噴火が起きたピナツボ火山を訪れた。四駆と徒歩で1時間半ほどかけてカルデラ湖まで向かった。カルデラ湖の澄んだ水はとても綺麗で約25年前に大噴火が起こったとは思えないほどであった。その後、火山泥流堆積物や火砕サージ堆積物を観察し、噴火の規模や周囲への影響を考察することができた。フィールドワークの最終日である7日目はタール火山の中央火口丘へボートでわたり、露頭観察をしながらカルデラ湖を目指した。気温30℃超えの中歩くたびに火山灰が巻き上がるととても過酷な登山となったが、道中の露頭はとても観察しやすく、観察しながら学生同士での活発な議論も見られた。今回のプログラムでは、日本で見られないようなダイナミックな地形と地質に加えて、フィリピン独特の文化も学ぶことができた。はじめは皆日本とは異なる環境に戸惑っていたが、日が経つにつれて順応しとても楽しみながら活動できた。このような体験ができたのは引率教員だけでなく、フィリピン大学の関係者、現地のガイドの方々のおかげであった。感謝いたします。Salamat po!!!(ありがとう)

